

四季折々の森の植物や鳥・虫などの動物を紹介します

1. ドクダミ (ドクダミ科)

「ふれあいゾーン」の広い園路から右手の水路に降りる小道の右側の森脇にドクダミの花が咲いています。

ドクダミは庭の片隅や藪陰などでよく見かける植物です。

一昔前までは多くの薬効をもつ薬草として重宝され「十薬」とも呼ばれていました。生葉を火であぶって化膿傷の貼り薬に、葉を揉んだ汁は虫刺されに、葉を煎じたドクダミ茶は利尿や高血圧予防の効き目があります。

しかし、医薬品の進歩でドクダミは薬として用いられなくなり独特の強いにおいが災いしてすっかり嫌われるようになりました。

白い花びらのように見えるのは「苞」と呼ばれるもので、花に付随した葉が変形したものです。本物の花はごく小さくメシベとオシベだけのもので中央の花軸に多数が集まって付きます。

苞は普通4枚ですが、八重咲きのようになることもあります。ドクダミはセイヨウタンポポと同じ3倍体で単為生殖をするほか地下茎を伸ばして広がるのであつという間に庭を占領されてしまいます。



八重の苞 ↑



2. ヒメジョオン(キク科)

今、「びわこ地球市民の森」の園路脇や草地一面に白い花をつけている草丈50cmから150cm程度の植物はヒメジョオンです。

4月から5月にかけてはヒメジョオンとよく似たハルジオンが咲きます(森の生きものガイド第5号)を参照してください。

ヒメジョオンもハルジオンと同じく北アメリカ原産の帰化植物です。二つの植物は外観がよく似ていますが、いくつか見分けるポイントがあります。ハルジオンは茎を切ると中が中空になっていますが、ヒメジョオンは茎の中が詰まっています。また、ハルジオンは開花前の蕾が下向きに垂れますが、ヒメジョオン蕾が垂れません。

ヒメジョオンは6月から9月にかけて茎の上部が多く枝に分枝して先に花をつけます。

種子が熟すと、タンポポと同じように冠毛をもち風によって遠くに運ばれます。



3. ホタルブクロ(キキョウ科)

2本の大きいエノキがある広い園路を北西の方向に歩いていくと右側の森際に白いホタルブクロが咲いています。6月から7月に長い柄を伸ばして先に鐘形の花をつけます。花は長さ5~6cm、白色です。

子どもの頃、ホタルを捕まえてホタルブクロの花の中に入れて遊びました。暗闇のなかで、ホタルブクロの花が断続的に光輝くのはとても幻想的で美しい眺めでした。



4. ネムノキ(マメ科)

第7号でガイドした時は花が咲いていませんでした。

「ふるさとゾーン」の2本のエノキのそばと、「ふれあいゾーン」のビオトープ池の近くにネムノキがあります。6月から7月にかけてふわふわと風にゆれる細い糸のような美しい花が見られます。糸のように見える花は多数の小さい花が集まって、そのオシベが突き出たものです。花は夕方に咲きます。夜になると、両手を包むように葉を閉じるのでネムノキの名前がついています。

葉は鳥の羽のように小葉が連なった複葉です。このように夜になると、葉を閉じる植物は結構多く、クズ、フジ、ニセアカシア、クローバ、カタバミ、などがあります。



5. ウバユリ(ユリ科)

第7号でガイドした時は花が咲いていませんでした。

「里の森ゾーン」にウバユリが咲きます。花は緑白色で、長さ12-17cmの細長い花びらがやや不規則に並びます。花期は6-7月で、茎の上部に横向きの花をつけます。秋に長さ4-5cmで楕円形の果実をつけます。扁平な種子には広い膜があり、長さ11-13mmの鈍三角形になります。ウバユリは関東から西一帯に分布し、かつてはケヤキ林であったと考えられる竹林の下に見ることが多いと言われています。ウバユリはユリの仲間ですが、花の形、果実のさけ方、葉の形などユリと違った点があります。名前の由来は、花の咲く時期に葉がないことからついたと言われていましたが、葉が残っていることもあります。



6. ヒヨドリ(ヒヨドリ科)

ヒヨドリは「びわこ地球市民の森」に限らず、樹木のある場所ならどこでも見られる鳥です。元々は、冬になると朝鮮半島から冬を越すために飛来する渡り鳥でしたが、いつの間にか1年中日本国内に留まる「留鳥」になったと言われます。

日本ではよく見かける鳥ですが、世界的に見ると非常に珍しい鳥で、日本近辺にしか生息していない、実はとても貴重な鳥です。暖かい季節には、虫や果実類を食べて過ごします。花の蜜や柑橘類は好物で、甘味を好むようです。

しかし餌の少なくなる冬場には、畑やベランダの家庭菜園に出没してキャベツやブロッコリーなどの芽や葉を食べるので困ります。頭の羽毛がボサボサしていること、尾が長いこと、波形を描いて飛ぶのがヒヨドリの特徴で比較的に見分けやすい鳥です。

